■工法概要

屋上に取付ける鉄骨梁を地上またはスラブ上に並べ、タイトフレームを先付ける接した後、揚重、セットしていく工法。

従来の方法では高所での墨出し作業や溶接作業が必要でったが、これらの高所作業を削減、省人化を図る。

タイトフレームの取付位置は、鉄骨建方の施工誤差等を考慮し、精度よく取付ける必要がある。

■写真・イメージ・図面

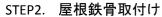
STEP1. 地上またはスラブ上でタイトフレームを取り付け





作業場所状況

溶接作業状況





建方状況



建方完了状況

■特徴・適用条件・注意事項 等

【品質】

■・作業性向上により、溶接不良削減。

【工期】

特徴

・鉄骨建方中にタイトフレームの取付け作業開始可能。

・屋上の鉄骨建方完了と屋根工事のタイムラグが縮まり、建方完了後すぐに 屋根工事に着手することができ、工期短縮が可能。

効果

【コスト】

メリット 高所作業が減るため、仮設費の削減が可能。

・歩掛り向上により労務単価の低減が可能。

【安全】

・・危険が伴う高所での墨出しや溶接作業がなくなり、安全性が向上する。

適用条件 要。 ・タイトフレームを地上やスラブ上で溶接するための作業スペース確保が必要。

特許なし

メーカー等なし

備考

・屋根鉄骨を取付ける柱の精度を良くする。

・タイトフレームを取り付ける位置を墨出し、精度良く取付ける。

■検索用分類

I				
検討時期	部位•種別	着眼点	効果	職種
Phase0(営業)	仮設	繰り返し作業	∠ Q	✓ 鳶工
☐ Phase1(企画)	基礎	✓ 工程数削減	☑ C	土土
Phase2(基本設計)	■ 躯体(RC)	□ 標準化・モジュール化	☑ D	□ 鉄筋工
■ Phase3(実施設計)	✓ 躯体(S)	✓ 省人化	☑ S	型枠工
✓ Phase4(施工準備)	✓ 外装	✓ IT化·高効率化	□ E	左官工
✓ Phase5(施工)	□ 内装	工場製品化·PCa化		□ 鍛冶工
	外構	ユニット化		✓ 金属工
	□ 設備	─ 機械化		□ 内装工
	□ IT化	多能工化 共業化		電工
	□ 特殊構工法	☑ VE•設計変更		配管工